

教育委員会

教育公安委員会

【所管関係資料】

6月9日提出

目 次

課室名	タイトル	頁
施設整備室	県立学校整備事業における中東情勢等の影響について	3
高校教育課 特別支援教育課 施設整備室	「産業イノベーション人材育成等に資する高等学校等教育改革促進事業」に申請中の改革先導拠点について	4

県立学校整備事業における中東情勢等の影響について

施設整備室

1 着手中の工事への影響

ナフサを原料とする建築資材不足の影響から、一部の工事において進捗の遅れや資材の値上がりが報告されている。

整備事業名	現契約の工期	影 響
横手高等学校 ・ 体育館棟工事	令和9年3月	・ 鉄骨さび止め材が調達できず、躯体が未施工となっている。 ・ 約9か月の工期延長となる見込みである。
大曲高等学校 ・ 第一体育館・武道場棟工事	令和8年11月	・ 仕上げ材の調達ができず、進捗に遅れが生じている。 ・ 約4か月の工期延長となる見込みである。
金足農業高等学校 ・ 管理・教室棟工事	令和9年8月	・ 躯体工事が完了しているため、工期及び請負金額への影響はない。
湯沢高等学校 ・ 教室・管理棟工事	令和8年12月	・ 仕上げ材の調達ができず、進捗に遅れが生じている。 ・ 約3か月の工期延長となる見込みである。

2 今後の対応

一部の工期延長及びインフレスライド条項の適用による変更契約が必要となるため、事務手続きについて検討中である。

「産業イノベーション人材育成等に資する高等学校等教育改革促進事業」に申請中の 改革先導拠点について

高校教育課
特別支援教育課
施設整備室

1. 概要

国が示した高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）の推進に向け、先導的な教育改革の拠点を創出する事業において、各都道府県には、「アドバンスト・エッセンシャルワーカー等の育成」、「理数系人材の育成」、「多様な学習ニーズへの対応」の3類型すべてで改革先導拠点を創出し、その成果を地域の他校へ普及させることが求められている。本県では、以下の4校を申請中である。

2. 申請中の改革先導拠点

<類型1>アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援（2校）

- ・大曲農業高校（協力校：秋田北鷹高校、金足農業高校）
- ・男鹿海洋高校（協力校：男鹿工業高校、能代科学技術高校、由利工業高校）

<類型2>理数系人材育成支援（1校）

- ・秋田高校（協力校：大館鳳鳴高校、秋田北高校、湯沢高校）

<類型3>多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保（1校）

- ・能代高校定時制課程（協力校：能代支援学校、比内支援学校たかのす校）

3. 申請中の経費

国庫補助申請額 6, 200, 000千円（補助率10分の10）

（内訳）

- | | |
|------------|---------------|
| ・大曲農業高校 | 1, 755, 508千円 |
| ・男鹿海洋高校 | 2, 088, 696千円 |
| ・秋田高校 | 2, 023, 697千円 |
| ・能代高校定時制課程 | 332, 099千円 |

4. 採択発表日

- ・令和8年6月下旬（予定）

【申請中】アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

改革先導拠点：大曲農業高校（協力校：秋田北鷹高校、金足農業高校）

未来の農業をCreateする高度専門職人材育成に向けた産官学連携による実践的農業教育の拠点形成

- 本県の各産業分野においては、DXやGXを先導する高度専門職人材の育成に課題感。専門高校の学びも、技術の進展への対応が不十分。最先端の技術に触れるだけでなく、**「技術を活用して、新しいものを産み出す」ことを意識した課題解決型学習の実装**が急務。
- 本県の有する物的・人的資源を総動員して、**産官学が「面」としてつながる「AKITAスマートフィールド構想」を実現**し、実践的な教育モデルを軸としたパイロットケースの創出・展開を図り、本県はもちろん、**日本の食を支える意欲ある人材を輩出**する。

【拠点における主な改革目標】

- ・卒業生の新規就農者数の増加、専門性を生かした進学者数の増加
- ・農業関係の全国大会における入賞数の増加

【取組内容・創出するパイロットケース】

教育改革の内容

- ・スマート技術、AI等の活用により、農産物の味や栽培技術等を可視化→蓄積したデータを県内農業高校、大学、農業法人等と共有し、収益性向上のための共同研究に活用
- ・産官学が連携し、共同研究や長期インターンシップの受入を通じて、未来の農業をCreateする実践的農業教育を実践し、地域のイノベーターを育成

施設・設備の整備

- ・温室効果ガス発生抑制と県のJ-クレジット創出に寄与する、堆肥プラント一体型の「循環型スマート畜舎」の整備

【他校への普及方策】

- ・産官学が連携した実践的な人材育成教育システムの横展開
- ・農業科教員を対象とした「先端農業技術研修プログラム」の開発・実践

【申請中】アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

改革先導拠点：男鹿海洋高校（協力校：男鹿工業高校、能代科学技術高校、由利工業高校）

洋上風力・GX産業を支える高度専門職人材育成拠点の構築

- 本県の各産業分野においては、DXやGXを先導する高度専門職人材の育成に課題感。専門高校の学びも、技術の進展への対応が不十分。最先端の技術に触れるだけでなく、**「技術を活用して、新しいものを産み出す」ことを意識した課題解決型学習の実装**が急務。
- 多様な再生エネルギー源を有する本県の強みを存分に生かし、**工業と水産が融合したこれまでにない教育モデル**によるパイロットケースの創出・展開を進め、これからの**カーボンニュートラル時代を支える人材を輩出**する。

【拠点における主な改革目標】

- ・ 洋上風力発電関連産業等への就職者の増加
- ・ 第三種電気主任技術者等の国家資格取得者の輩出

【取組内容・創出するパイロットケース】

教育改革の内容

- ・ 工業科と水産科の枠を超えた横断的な学びの実現と、企業ニーズを踏まえた2つの高度専門履修プログラムの開発
- ・ 周辺海域の環境データ等を活用し産官学一体で行う探究学習の展開
- ・ 高度資格・専門技術習得のサポートをメインに行う「テクニカル塾」と基礎学力の定着を図り、居場所づくりをメインに行う「地域 commons」を開設

施設・設備の整備

- ・ 安全かつ高度な先端技術習得に向けた工業系実習棟の整備
- ・ 洋上ブロードバンド通信に対応した艇庫の整備

【他校への普及方策】

- ・ 企業等と連携した「GX実習指導パッケージ」の開発・展開

【申請中】理数系人材育成支援

改革先導拠点：秋田高校（協力校：大館鳳鳴高校、秋田北高校、湯沢高校）

理数系・イノベーション人材の育成に向けたSTEAM教育の拠点形成

- 「全国最大の人口減少率」である本県において、山積する課題を科学技術で乗り越え、新たな価値の創出に挑む**イノベーターの養成**が喫緊の課題。
- 学校全体を「自ら学ぶ」探究のステージへ転換し、**データサイエンスの基礎習得から応用までを体系的に行うSTEAM型探究カリキュラム**を軸として、理数系・イノベーション人材を育成するパイロットケースを創出・展開することで、**新時代をしなやかに生き抜き、力強くリードする人材を輩出**する。

【拠点における主な改革目標】

- ・ 医理工情報系大学への進学者数の増加
- ・ 探究的・文理融合的な学びを活用した進学者数の増加

【取組内容・創出するパイロットケース】

教育改革の内容

- ・ 学校設定科目を活用し、大学・企業等の専門家による「STEAMメンター」の伴走支援を得て行う新たなSTEAM型探究カリキュラムの全校的展開
- ・ 探究と実践を往還するワークショップ等を通じ、新たな価値の創出に挑むアントレプレナーシップ教育プログラムの開発
- ・ 科学的視点を取り入れた部活動の推進による新たな文武両道の実践

施設・設備の整備

- ・ 探究活動のプロセス（起点・調査・実験・集中・発信）にあわせた理科棟・小体育館等の既存校舎の機能転換

【他校への普及方策】

- ・ オンラインを活用した生徒向け講座及び教員向け研修講座の配信を通じた「All Akita STEAMネットワーク」の構築

【申請中】多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保

改革先導拠点：能代高校定時制課程（協力校：能代支援学校、比内支援学校たかのす校）

多様性を包摂する未来型インクルーシブ教育の拠点形成

- 不登校をはじめ、多様な背景を有する生徒が増加する中で、**誰もが安心して学べる拠点の形成**と、**生徒一人一人の興味・関心やニーズに対応した指導体制の構築**が喫緊の課題。
- 主体的に学びをデザインできる教育課程の編成と、遠隔教育を取り入れたハイブリッド型の学習基盤の整備により、**「いつでも、どこでも」学び、社会と「つながる」**ことができるインクルーシブ教育の発展型として、パイロットケースの創出・展開を進め、**自らの人生をたくましく切り拓く人材を育成**する。

【拠点における主な改革目標】

- ・ 遠隔授業や個別の教育課程を活用して単位を修得した生徒の割合の増加
- ・ 多様なカリキュラムによる学びが進路達成に結び付いた生徒の割合の増加

【取組内容・創出するパイロットケース】

教育改革の内容

- ・ 学校種の垣根を越えて学ぶ「オーダーメイドの時間割」を可能とする柔軟な教育課程の編成
- ・ 遠隔教育を活用した「多様な学びのサポートネットワーク」の構築
- ・ 対面とオンラインとをハイブリッドに活用した交流・協働学習の充実
- ・ オープンラウンジを活用し、地域のNPOスタッフや大学生ボランティアによる学習支援・居場所づくりを一体的に実施

施設・設備の整備

- ・ 日常的に遠隔授業を可能とする教室の整備
- ・ 地域との協働拠点となるオープンラウンジの整備

【他校への普及方策】

- ・ 特別支援教育と普通高校での学びを発展的に融合していくためのマニュアルを開発し、全県の高校へ展開
- ・ 「学習・就労支援ハブ」としての機能体制の構築と普及